



NEWS LETTER

発行:水資源・環境学会

NEWS LETTER No.92

2025年1月10日

目次

| | |
|----------------------------------|----|
| 2024年度冬季研究会のご案内 | 1 |
| 2025年度 研究大会のご案内(第1報) | 4 |
| 2024年度現地研究会 開催報告 | 4 |
| 2024年度総会報告 | 8 |
| 2024年度 水資源・環境学会 学会賞の決定について | 16 |
| 学会誌『水資源・環境研究』 投稿規程・執筆要領改訂について | 17 |
| 学会誌『水資源・環境研究』 37巻2号の目次について | 17 |
| 事務局からのお知らせ | 18 |

2024年度 水資源・環境学会 冬季研究会のご案内

テーマ:高時川濁水問題解決のための展望

【日時】 2025年3月29日(土) 13時30分~16時30分

【会場】 長浜バイオ大学 命江館1階大会議室
(滋賀県長浜市田村町1266)

※Teamsによる同時配信を予定しています。

【問い合わせ先】 実行委員長 高橋卓也

tak☆ses.usp.ac.jp (☆→@)

2022年8月の豪雨以来、滋賀県長浜市高時川では長期にわたって濁水が発生し、濁度は低下傾向にありますが、依然としてリスクが懸念されております。高時川は、アユの産卵場、農業用水の取水面で地域の産業に深く関わるのみならず、2022年の豪雨で氾濫や住宅への浸水などが発生するなど住民の安全な生活にとって重大な脅威となる川でもあります。

滋賀県ではこの問題に対応し「高時川濁水対策連絡調整会議」を庁内に設置し、学識経験者を加えた「高時川濁水問題検討会議」で原因究明と対応策の検討を進めており、2024年3月に報告書が作成されました。

滋賀県庁HP 高時川関連情報

<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kankyoshizen/shinrinhozen/332830.html>

現段階では、上流のスキー場跡地、溪流の崩壊地からの土砂が河床に堆積し、増水時、平水時に流出するのが原因と考えられております。

河川、森林、漁業、農業、新エネルギー開発(上流部では風力発電が予定されております)など多様な要素がからみあうこの問題の解決には学際的な研究者・実務家の貢献が求められているのではないのでしょうか。

水資源・環境学会では、2024年4月より、滋賀県の検討会報告書の勉強会、現地視察を進めてきました。このたび、冬季研究会において高時川の濁水問題をテーマとして皆様の知見の結集を進めたく考えております。これまでの勉強会、現地見学会にご参加の方々も含め、多くの方々のご参加を呼びかけます。

※会場では、2022年出水後の高時川源流域の空中写真等のパネル展示も実施します。

参加ご希望の方は、**3月22日までに**学会Webサイトのトップページ下にある「研究会の予定」欄のリンクより申し込みをお願いします。参加の形態(対面orオンライン)、懇親会参加の有無もあわせてお知らせください。

なお、懇親会(詳細はP3下部掲載)への参加もご希望の方については、手配の都合上3月10日までに申し込みください。懇親会は定員に達し次第、募集を締め切ります。

会場へのアクセス：JR琵琶湖線「田村駅」西口
（長浜・敦賀方面のりば直結）より徒歩2分

※会場の「命江館」は、大学の正面から見て左側
（琵琶湖側）にある、時計塔の付いた建物です。
（右図のほぼ中央です）



※田村駅は無人駅です。ICカードご利用の方はチャージ残高にご注意頂き、
お帰りの切符は事前にご用意ください。
当日、学内の食堂は休みです。近辺には飲食店がほとんどなく、コンビニもやや遠いです。
また、列車の本数も少なめです。アクセスに便利な列車を下記にまとめました。

★お越し頂く際に便利な列車

新快速・米原経由近江塩津行き

三ノ宮11：07→大阪11：30→高槻11：46→京都12：00→米原13：01→田村13：08

ひかり639号：東京10：33→名古屋12：19→米原12：47

のぞみ18号：広島10：43→岡山11：20→新大阪12：04 ひかり650号：新大阪12：18→米原12：52

新快速（近江塩津行き）：米原13：01→田村13：08

※新快速（近江塩津行き）は、米原駅6番のりばから発車します。

列車は12両で到着しますが、後ろ8両は米原駅どまりです。田村駅へは、前4両にご乗車ください。

★お帰りの際に便利な列車

【研究会のみご参加の場合】

新快速・播州赤穂行き：

田村17：01→米原17：10→京都18：12→高槻18：26→大阪18：42→三ノ宮19：09

田村17：31→米原17：40→京都18：42→高槻18：56→大阪19：13→三ノ宮19：39

（田村駅17：31の列車で米原乗り換え）

ひかり660号：米原17：57→名古屋18：25→東京20：12

ひかり649号：米原17：53→新大阪18：27 のぞみ47号：新大阪18：41→岡山19：26→広島20：02

【懇親会にもご参加の場合】

新快速・米原方面姫路行き

長浜19：28→米原19：41→京都20：47→高槻21：01→大阪21：17→三ノ宮21：43

長浜19：57→米原20：10→京都21：07→高槻21：22→大阪21：38→三ノ宮22：03

（長浜駅19：28の列車で米原乗り換え）

ひかり664号：米原19：57→名古屋20：25→東京22：18

ひかり653号：米原19：53→新大阪20：27 のぞみ57号：新大阪20：41→岡山21：25→広島22：02



☆☆ 冬季研究会プログラム ☆☆

開会の挨拶

13:30-13:35

会長 仲上 健一（立命館大学・名誉教授）

趣旨説明・会場の紹介

13:35-13:40

高橋 卓也（滋賀県立大学）
仁連 孝昭（長浜バイオ大学・理事長）

座長解題

13:40-14:00 高時川濁水問題の概要と論点－何が『問題』か。どう『解く』か。

村上 悟（NPO法人碧いびわ湖・代表理事）

基調報告

14:00-14:20 （仮）2022年8月豪雨後の高時川の長期濁水に関する調査の経緯

大久保 卓也（滋賀県立大学・名誉教授）

14:20-14:40 高時川の濁水長期化メカニズムと現状分析

原田 守啓（岐阜大学）

14:40-15:00 河道改変がもたらす災禍としての高時川濁水長期化問題

中川 晃成（龍谷大学）

休憩

15:00-15:10

報告を受けたコメント

15:10-15:20

梶原 健嗣（愛国学園大学）

15:20-15:30

石塚 武志（龍谷大学法学部・里山学研究センター）

総合討論

15:30-16:25

閉会の挨拶

16:25-16:30

秋山 道雄（滋賀県立大学・名誉教授）

★懇親会についてのご案内

冬季研究会終了後、懇親会を開催します。

会場：長浜浪漫ビール（長浜駅東口より徒歩5分）

※クラフトビール、ウィスキー等の醸造所に併設されたレストランです。

時間：17時30分～19時頃

会費：6,000円程度（飲み放題付きコースを予定）

懇親会にも参加をご希望の方は、手配の都合上3月10日までにお申し込みください。懇親会は定員に達し次第、募集を締め切ります。

2025年度 研究大会について(第1報)

2025年度の研究大会は、法政大学市ヶ谷キャンパス（東京都千代田区）において、6月7日（土）に開催を予定しています。テーマ（仮）は、「小規模水道の将来像」です。

研究発表の申し込み案内やプログラムについては、2025年3月頃をめどに学会Webサイトに掲載します。今しばらくお待ちください。

2024年度 現地研究会 開催報告

企画担当理事 飯岡 宏之

2024年11月10日曜日、一日をかけて2024年度のエクスカージョンを実施しました。今回は「二つの多摩川水害（1974年・2019年）の現地を訪ねる」と題して、1974年の台風16号による東京都狛江市の水害被災地、2019年の台風19号による川崎市の水害被災地を訪ねました。午前中は左岸の狛江市、午後は右岸の川崎市を河川に沿って歩きました。

当日は小田急線泉多摩川駅に10時に集合し、徒歩15分程度で多摩川左岸に到着。水害の原因となった宿河原堰（1999年に新築）を見ながら下流にしばらく歩くと、「多摩川決壊の碑」があります。流された住戸は19戸にのぼり訴訟となりました。大阪・大東水害の最高裁の判決（1984年）によって、国の造営物の工事の瑕疵を争うことは困難と言われるなかで、この狛江水害は最高裁での差戻審理を経て、住民（被災者）側が勝訴となった歴史的な判決となりました。勝訴の確定は1992年ですから、提訴から16年間という長い時間を要しました。すでに堤防は改修され河川敷は「自由の広場」と呼ばれる公園となっています。「多摩川決壊の碑」のモニュメントは狛江市によって手入れがされており、古さを感じません。午前中の参加者は、会員は仲上、足立、飯岡、また、当時の弁護団を構成した川崎南部合同法律事務所から2人が参加しました。勝訴から25年を経っていますが、当時の状況を想像しながら、歩くことの大切さを実感しました。

午後は、2019年の台風19号による水害による関係先を巡りました。台風19号では小河内ダムが緊急放流したこともあって、多摩川の中流で危険水位となりました。国土交通省からは逐次情報提供を受け、さらに樋門（樋管）の閉鎖は危険水位となったことを確認して行うという通知があったにもかかわらず、川崎市は5か所の水門を開放したままにしたため、排水管（この地域は合流式ですが、雨水は直接河川に放流されます）が逆流し、死者1人、家屋の全壊33、半壊948、床上浸水1,258、床下浸水411という大規模災害となりました。現在、川崎市を相手に公務員の不作為による賠償を求める裁判が起こされて3年目となっています。午後は主に逆流した宇奈根地域、さらに、多摩川の霞堤から二ヶ領用水の久地円筒分水まで歩きました。参加者は午前中に加え、弁護団・原告団・支援の会など30人余となりました。途中、被害を受けた住民の方から状況を聞き取り、現地調査の後は意見交換会を行うという大変貴重な機会となりました。改めて、この企画を準備して頂いた現地の方々にお礼を申し上げます。

また、この裁判は口頭弁論が開かれて今年には結審になると言われます。「公正判決を求める署名」へのご協力をお願いします。

※右のQRコードより、change.orgで実施中の署名募集サイトにアクセスできます。



★2025年度現地研究会の企画募集について

2025年11月に開催を予定している現地研究会の企画を募集しています。自薦他薦かまいませんので、簡単な内容、日程などを担当の飯岡までメール [iioka408☆gmail.com](mailto:iioka408@gmail.com)（☆→@）で寄せてください。理事会で検討のうえで、2025年6月頃に発表したいと思います。



2つの多摩川水害（1974年・2019年）の現地を訪ねて

水資源・環境学会会長 仲上健一

1974年に多摩川が破堤し、1975年に石狩川の、1976年に長良川の堤防が切れた。当時、私は京都大学大学院生だったが、その映像は今でも鮮明に覚えている。明治以来近代工法で治水事業を行ってきた治水行政への痛烈な警告でもあった。私は長良川訴訟にも関わったが、多摩川の水害訴訟は最後の判決まで18年も費し、一審では原告側が勝訴、二審では建設省が逆転勝ち、最高裁では高裁の審理が不十分として差し戻し、東京高裁の2度目の裁判で最終的にはほぼ原告の被災者側の勝訴となった。2019年には、再び多摩川水害が発生し犠牲者が出るとともに、多くの住民が被害を受け、再び訴訟となった(図1参照)。2024年は、1974年の多摩川破堤から50年になる年であった。

今回の現地調査は、飯岡宏之企画担当理事の周到な準備により実現した。改めてお礼申し上げる。参加者は、水資源・環境学会、川崎合同法律事務所弁護士、多摩川水害川崎訴訟団からなる全体で31名となるもので、水資源・環境学会始まって以来の大規模な現地調査イベントとなった。現地視察では、新たな発見の場になるとともに、多摩川水害の被害者住民の方々からの生々しい被害状況の説明を受けた。現地調査の後は、台風19号多摩川水害川崎訴訟団および川崎合同法律事務所弁護士の皆さんとの意見交換・懇親会と、充実した一日であった。

台風19号多摩川水害川崎訴訟原告団ニュース「上り鮎」No.28には、現地視察および意見交換会の様子が詳しく出ているので、ご覧頂ければ幸いである。[上り鮎 | 台風19号多摩川水害川崎訴訟](#)

例年の現地研究会は、酷暑の中の行軍であったが、今年は、その反省を踏まえ、11月の過ごしやすい季節であったことも付け加えたい。以下は、現地視察の写真を紹介する。

2 被害の概要

多摩川沿い5箇所の排水樋管周辺地域で浸水被害が発生した。排水樋管周辺における浸水面積は、計約110haであった。



図1：2019年多摩川水害(川崎市)の浸水状況

出典：川崎市水道局、『令和元年東日本台風による排水樋管周辺地域の浸水に関する検証報告書【概要版】』
2020年4月



写真1：多摩川決壊の碑

東京都狛江市猪方4丁目横の多摩川河川敷にある「多摩川決壊の碑」。1974年9月、多摩川堤防が決壊、猪方地区の家屋19棟の流出という大被害をもたらした。



**写真2：台風19号多摩川水害川崎訴訟団の
合同調査の挨拶の様子**

原告団長の川崎 晶子さん（中央）の挨拶があった。



写真3：宇奈根排水樋管

【概要】堰排水区（120.0ha）、排除区分：分流、
最大流出量：7,800m³/s

【排水樋管構造】縦2.16m×横1.3m、箱型管きよ2
連構造、手動開閉式

管頂高：14.181m、管底高：12.021m



写真4：かすみ堤

「かすみ堤」は多摩川の治水のために、江戸時代に農民の手によって作られた。昭和初期に新しい堤防が多摩川沿いに建設されたため、現在は堤防としての役割は無くなり、多摩川の「旧土手」の一部となっている。現存はおおよそ700m。



写真5：平瀬川での集合写真

平瀬川では、バックウォーター現象により被災した様子と市・県・国の防災対策、住民要望の話を石田和子前神奈川県県議会議員に説明して頂いた。その後、台風19号で亡くなられた方がお住まいだった地域を歩き、かすみ堤の上での集合写真。



写真6：ニヶ領用水久地円筒分水説明図

多摩川の支流、平瀬川の下を2本のコンクリート管で潜り、円筒分水の中央の円筒から噴き上がってくる。その外側の直径8mの円筒は、噴き上がって波立った水面の乱れを抑える整水壁の役割をしている。さらにその外側にある直径16m円筒の円周を4本の堀それぞれの灌漑面積に合わせた比率の長さ（川崎堀38.471m、六ヶ村堀2.702m、久地堀1.675m、根方堀7.415m）により仕切って越流落下させることにより、流量が変化しても、各堀に一定の比率で分水されるようになった。



写真7：ニヶ領用水久地円筒分水

久地円筒分水を設計したのは、当時の神奈川県多摩川右岸農業水利改良事務所長であった平賀栄治（1892～1982）である。平賀氏は、忠犬ハチ公で有名な上野英三郎博士の弟子である。



写真8：訴訟団との意見交換会

台風19号多摩川水害訴訟弁護団・団長 弁護士 西村 隆雄氏より、裁判の経過報告があり、その後、参加者より、現地視察の感想が述べられた。

2024年度 総会報告

2024年6月1日に同志社大学今出川キャンパスで開催された2024年度研究大会と合わせて開催され、以下の議案が承認された。

- 第1号議案 2023年度事業報告
- 第2号議案 2023年度決算案
- 第3号議案 2024年度事業計画
- 第4号議案 2024年度予算案
- 第5号議案 水資源・環境学会誌の掲載料の徴収とオープンアクセス化
- 第6号議案 水資源・環境学会規約改正案
- 第7号議案 2024 - 2025年度役員候補

第1号議案：2023年度事業報告

【研究事業】

- ①：第39回研究大会（2023年6月3日）拓殖大学文京キャンパス
研究大会テーマ：水の安全保障と水利用

テーマ論題：

1. 飯岡宏之（SUW研究所）水道事業の視点から見る「水の安全保障」
 2. 奥田進一（拓殖大学）「水の安全保障」に係る国内法の課題
 3. 平野実晴（立命館アジア太平洋大学）「水の安全保障」に係る国際法の課題
- なお、仲上健一（立命館大学名誉教授）『「水の安全保障」研究の今日的課題』は、豪雨による東海道新幹線の運転見合わせにより予定時刻に到着できずに中止となった。
パネル討論：コーディネイター 秋山道雄（滋賀県立大学名誉教授）
※リモート参加によりパネル討論が実施された。

自由論題：

1. 松優男（内外エンジニアリング株）
都市化が進展する農業地域における冬期水利権量の再配分と環境用水
－滋賀県野洲川土地改良区を事例として
 2. 田淵直樹（水郷水都全国会議）水害から避難する－2020球磨川豪雨水害を事例に
 3. 森明香（高知大学）
気候危機時代における“川との共生”を考える
－2020年球磨川流域豪雨災害・人吉地区における市民調査からの示唆
- なお、梶原健嗣（愛国学園大学）
「水害訴訟史における鬼怒川水害の意義－第一審水戸地裁判決を題材に」は、開催時間が短縮されたため2024年度大会へ繰り延べとなった。

- ②：夏季現地研究会（2023年8月25日及び26日に実施）

テーマ：「荒川（放水路）のない荒川から河川を考える」
酷暑の中での実施となったため、今後は日程を再検討（もう少し穏やかな気候の時期に）する方針となった。

- ③：冬季研究会（2024年3月2日、長岡京市中央生涯学習センター）

「流域治水を考える」というテーマで実施された。足がかりとして佐藤政良会員（物故）の問題提起と提言について秋山道雄会員から紹介があり、奥田 進一、梶原 健嗣、渡邊 紹裕会員からコメントおよび問題提起があり、活発な議論が交わされた。



【学会誌事業】

学会誌『水資源・環境研究』の第36巻1号を2023年8月、第36巻2号を2023年12月に発行した。第36巻1号に関しては、「日本のダム問題の現状」をテーマとした特集号としている。

【広報事業】

①：ニューズレター

89号を2023年4月25日に、90号を2023年11月15日に発行した。

②：学会Webサイト内「随想」の掲載

2023年夏に実施した学会Webサイトの全面リニューアルに合わせ、それまで外部ブログに掲載していたコラムを、学会Webサイト「最新情報」の欄に「随想」として移行。当初は4本の掲載予定であったが、若井理事より連載企画4本を別途投稿頂き、更新頻度の向上、サイトへのアクセス数増加に貢献した。

2023年度中に掲載した記事の一覧

1. 淀川三川合流地域と背割堤—さくらであい館を訪れて— 小幡範雄
2. 水と人と町の今昔 (1) 天神川の都市河谷と御土居の築造 若井郁次郎
3. 「鮎狩り」という楽しみ 原田禎夫
4. 水と人と町の今昔 (2) 鴨の流れと起終点の橋・三条大橋 若井郁次郎
5. 世界かんがい施設遺産 渡邊紹裕
6. 水と人と町の今昔 (3) 勧進と興行を兼ねた橋・四条大橋 若井郁次郎
7. 狭山池 永遠に残すべき生きた遺跡 三輪信哉
8. 水と人と町の今昔 (4) 牛若丸と弁慶の運命の出会い・五条橋 若井郁次郎

③：学会Webサイトの運営について

2023年7月26日に学会Webサイトの全面リニューアルを実施した。安心してアクセスできるようなセキュリティの強化や、従前は業者に委託していた更新作業を広報委員会で直接実施できるようにし、運営コストの縮減を図った。その他、「お問い合わせフォーム」の新設や、スマートフォン・タブレット端末でも快適に閲覧できるようなサイト設計としている。

【表彰事業】

2023年度学会賞として、鈴木康久・肉戸裕行著『京都の山と川』（中公新書、2022年）を選出した。

【学会設立40周年事業】

ブックレット「環境問題の現場を歩く」シリーズの刊行を開始した。

2023年度内には、下記の2冊を発行している。（発行：成文堂）

シリーズ1 志津川湾と野川を歩く（仲上健一・山本佳世子）

シリーズ2 長良川河口堰とハッ場ダムを歩く（伊藤達也・梶原健嗣）

【学会叢書】

8冊目の叢書として、梶原健嗣著『都市化と災害の戦後史』を2023年6月29日に刊行した。

第2号議案：2023年度決算案

| | 予算 | 決算 | 差額 | 備考 |
|--------------|------------------|-----------------|-----------------|---------------------------------|
| 収入合計 | 698,250 | 747,300 | 49,050 | |
| 1 会費 | 690,000 | 574,000 | -116,000 | |
| 法人会員 | 30,000 | 30,000 | 0 | 1口 |
| 個人会員 | 660,000 | 544,000 | -116,000 | 109口 |
| 2 販売収入 | 8,250 | 5,300 | -2,950 | |
| 購読料収入 | 8,250 | 5,300 | -2,950 | 4件 |
| 研究会参加費 | 0 | 0 | 0 | |
| 3 超過原稿料 | 0 | 168,000 | 168,000 | 1号8p, 2号20p |
| 4 その他 | 0 | 0 | 0 | |
| 支出合計 | 1,070,000 | 1,685,995 | 615,995 | |
| 研究事業 | 25,000 | 6,708 | -18,292 | |
| 1.1 会場費 | 20,000 | 6,708 | -13,292 | 冬季研究会会場費 |
| 1.2 郵送料 | 0 | 0 | 0 | |
| 1.3 消耗品 | 5,000 | 0 | -5,000 | |
| 1.4 交通費 | 0 | 0 | 0 | |
| 1.5 その他 | 0 | 0 | 0 | |
| 2 学会誌事業 | 506,000 | 990,800 | 484,800 | |
| 2.1 編集費 | 500,000 | 987,800 | 487,800 | |
| 36巻1号 | 300,000 | 548,350 | 248,350 | 79ページ ダム特集8、論文1、ノート2、フォーラム1、書評1 |
| 36巻2号 | 200,000 | 439,450 | 239,450 | 70ページ 論文3、ノート4、書評2 |
| 2.2 郵送料 | 0 | 0 | 0 | |
| 2.3 謝礼(査読) | 6,000 | 3,000 | -3,000 | |
| 2.4 その他 | 0 | 0 | 0 | |
| 3 広報事業 | 400,000 | 568,845 | 168,845 | |
| 3.1 郵送料 | 0 | 0 | 0 | |
| 3.2 印刷費 | 0 | 6,195 | 6,195 | ニューズレター89号 |
| 3.3 委託事業(HP) | 400,000 | 562,650 | 162,650 | 学会ウェブサイト作成 |
| 3.4 その他 | 0 | 0 | 0 | |
| 4 事務局経費 | 139,000 | 119,642 | -19,358 | |
| 4.1 理事会会場費 | 20,000 | 0 | -20,000 | |
| 4.2 郵送料 | 14,000 | 15,640 | 1,640 | |
| 4.3 消耗品 | 5,000 | 2,284 | -2,716 | |
| 4.4 会員管理委託 | 0 | 0 | 0 | |
| 4.5 その他 | 100,000 | 101,718 | 1,718 | 学会業務引継ぎ手数料、表彰状筆耕料 |
| 収支差額 | -371,750 | -938,695 | -566,945 | |
| 前期繰越資産 | 2,527,047 | 2,527,047 | 0 | |
| 当期繰越資産 | 2,155,297 | 1,588,352 | -566,945 | |

**第3号議案：2024年度事業計画****【研究事業】****①：第40回研究大会(2024年6月1日)同志社大学今出川キャンパス**

研究大会テーマ：海の環境保全ーコモنزのガバナンス

※注記：研究大会の開催報告は、[学会Webサイト](#)に掲載しております。**テーマ論題：**

1. 松田治（広島大学名誉教授）里海づくりとコモنزの課題
 2. 原田禎夫（同志社大学）海の「コモنزの悲劇」はどのようにして回避するのか
 3. 三輪信哉（大阪学院大学）石垣島白保集落のサンゴ礁保全と順応的管理
- パネル討論：コーディネイター 仲上健一（立命館大学名誉教授）

自由論題セッション1：紛争処理・管理手法と主体

1. 梶原健嗣（愛国学園大学）
水害訴訟史における鬼怒川水害の意義ー第一審水戸地裁判決を題材に
2. 秋山道雄（滋賀県立大学名誉教授）・保屋野初子（星槎大学）・東智美（埼玉大学）
愛知川流域圏における地下水評価と水資源管理
3. 中川晃成（龍谷大学）デ=レーケの知られざる宇治川改修計画
4. 山添史郎（京都府立大学大学院・滋賀県日野町役場）・野田浩資（京都府立大学）
地域環境NPOにおける会員層と活動層の変化
ーNPO法人「びわこ豊穰の郷」の会員アンケート調査結果の4時点比較をもとに

自由論題セッション2：水の安全保障

5. 仲宗根卓（宮城大学）武力紛争時における湿地の保護に関する国際法
6. 飯岡宏之（Sustainable Urban Water研究所）
能登半島地震における上水道の復旧と広域水道
7. 大塚健司（アジア経済研究所）「メコンダイアログ」の実践と課題

②：現地研究会

これまで「夏季現地研究会」として、8月ないし9月に開催してきたが、近年の酷暑を踏まえて、開催時期を後ろ倒しすることを含めて検討する。

※注記：本ニューズレターP4～P7掲載の通り、2024年11月10日に実施した。

③：冬季研究会

企画検討中

※注記：本ニューズレターP1～P3掲載の通り、2025年3月29日に開催決定。

【学会誌事業】

学会誌『水資源・環境研究』の第37巻1号を2024年6月、第37巻2号を2024年12月に発行予定。

※注記：第37巻1号は2024年7月24日にJ-Stageで公開しました。

【広報事業】**①：学会Webサイトの「最新情報」とニュースレターとの役割分担再検討**

2023年夏に実施した学会Webサイトの全面リニューアルにより、更新作業が容易にできるようになった。このことを踏まえ、ニュースレターとの役割分担を再検討する。

②：学会Webサイト「随想」の活用促進

2023年夏に実施した学会Webサイトの全面リニューアルにより、更新作業が容易にできるようになったことを活かし、更新頻度の向上を目指す。

【表彰事業】

2024年度学会賞として、伊藤達也著『水資源問題の地理学』（原書房、2023年）を選出した。

【学会設立40周年事業および出版事業】**①：ブックレット「環境問題の現場を歩く」シリーズを継続して刊行する。**

シリーズ3 琵琶湖と二風谷ダムを歩く（仁連孝昭・奥田進一）

シリーズ4 中国・淮河流域と貴州省石漠化地域を歩く（大塚健司・藤田香）

の2冊が2024年6月に刊行予定。

シリーズ5 京都・鴨川と別子銅山を歩く（鈴木康久・大滝裕一・高橋卓也）

シリーズ6 石垣島白保集落と霞ヶ浦を歩く

についても近日刊行予定。

※注記：シリーズ5は2024年7月29日、シリーズ6は2024年10月4日に刊行されました。

また、販売促進に努める（書評の掲載、宣伝など）。

②：現時点で計8冊が刊行されている学会叢書について、続編の刊行を目指す。



第4号議案：2024年度予算案

| | | 2023年度 | | 2024年度 | 備考 |
|---------|--------------|-----------|-----------|-----------|------------------|
| | | 予算 | 決算 | 予算 | |
| 収入合計 | | 698,250 | 747,300 | 905,000 | |
| 1 会費 | | 690,000 | 574,000 | 705,000 | |
| | 法人会員 | 30,000 | 30,000 | 30,000 | 1口 |
| | 個人会員 | 660,000 | 544,000 | 675,000 | 135口 |
| 2 販売収入 | | 8,250 | 5,300 | 0 | |
| | 購読料収入 | 8,250 | 5,300 | 0 | |
| | 研究会参加費 | 0 | 0 | 0 | |
| 3 超過原稿料 | | 0 | 168,000 | 0 | |
| 4 その他 | | 0 | 0 | 200,000 | 同志社大学経済学会補助金 |
| 支出合計 | | 1,070,000 | 1,685,995 | 905,000 | |
| 研究事業 | | 25,000 | 6,708 | 220,000 | |
| | 1.1 会場費 | 20,000 | 6,708 | 20,000 | |
| | 1.2 郵送料 | 0 | 0 | 0 | |
| | 1.3 消耗品 | 5,000 | 0 | 0 | |
| | 1.4 交通費 | 0 | 0 | 50,000 | |
| | 1.5 その他 | 0 | 0 | 150,000 | |
| 2 学会誌事業 | | 506,000 | 990,800 | 516,000 | |
| | 2.1 編集費 | 500,000 | 987,800 | 510,000 | |
| | 36巻1号 | 300,000 | 548,350 | 255,000 | 論説2, 研究ノート2, 書評2 |
| | 36巻2号 | 200,000 | 439,450 | 255,000 | 論説2, 研究ノート2, 書評2 |
| | 2.2 郵送料 | 0 | 0 | 0 | |
| | 2.3 謝礼(査読) | 6,000 | 3,000 | 6,000 | |
| | 2.4 その他 | 0 | 0 | 0 | |
| 3 広報事業 | | 400,000 | 568,845 | 132,000 | |
| | 3.1 郵送料 | 0 | 0 | 0 | |
| | 3.2 印刷費 | 0 | 6,195 | 0 | |
| | 3.3 委託事業(HP) | 400,000 | 562,650 | 132,000 | 学会website保守料 |
| | 3.4 その他 | 0 | 0 | 0 | |
| 4 事務局経費 | | 139,000 | 119,642 | 37,000 | |
| | 4.1 理事会会場費 | 20,000 | 0 | 10,000 | |
| | 4.2 郵送料 | 14,000 | 15,640 | 14,000 | |
| | 4.3 消耗品 | 5,000 | 2,284 | 3,000 | |
| | 4.4 会員管理委託 | 0 | 0 | 0 | |
| | 4.5 その他 | 100,000 | 101,718 | 10,000 | 表彰状筆耕料 |
| 収支差額 | | -371,750 | -938,695 | 0 | |
| 前期繰越資産 | | 2,527,047 | 2,527,047 | 1,588,352 | |
| 当期繰越資産 | | 2,155,297 | 1,588,352 | 1,588,352 | |

第5号議案：水資源・環境学会誌の掲載料の徴収とオープンアクセス化

①：掲載料徴収の提案（2025年度の第38巻掲載ぶん以降より）

1. 論説1投稿につき1万円、研究ノート1投稿につき5千円、水環境フォーラム1投稿につき5千円を、投稿する会員は、掲載料を掲載後に支払うものとする。
2. 既定のページを超えた投稿原稿については超過原稿料として1ページ当り1万円の超過原稿料を掲載後に徴収する。
3. 依頼原稿および書評については掲載料を徴収しないが、超過ページについては同じく超過原稿料を徴収する。

②：「水資源・環境研究」のオープンアクセス化

現状は刊行後1年間は会員限定の閲覧としている学会誌「水資源・環境研究」を、完全にオープンアクセスとし、掲載論文が公表後多くの読者が購読できるようにする。オープンアクセス化は2023年度に刊行した36巻から実施する。

第6号議案：水資源・環境学会 規約改正案

（赤字部分を改正した。）

1. 本会は、水資源・環境学会と称する。
(2) 英文名称はJapanese Association for Water Resources and Environmentと表記する。
2. 本会は、所在地を東京都千代田区富士見2-17-1法政大学文学部地理学科 伊藤研究室に置く。
3. 本会の設立年月日を1983年4月1日とする。
4. 本会は、その設立の趣旨に賛同する者をもって組織し、水資源および水環境に関する総合的かつ学際的な研究と発表を行うことを目的とする。
5. 前条の目的を達成するため、学術誌の発行、研究会、講演会の開催、優れた研究の表彰、その他必要な事業を行う。
6. 本会に入会しようとする者は、理事会の承認を得なければならない。
7. 本会は個人会員と法人会員によって構成され、個人会員および法人会員は以下に定める学会費を納めなければならない。
(2) 個人会費は年5,000円とする。
(3) 法人会費は年30,000円とする。
(4) 理事会は、会費納入が3年以上にわたり滞る者について、その会員資格を停止することができる。
- ~~7. 会員外で本会の発行する学術誌『水資源・環境研究』を購読しようとする者は、本会と購読契約を結ばなければならない。~~（削除）
8. 本会は定期総会を年に1回、6月に開催する。
9. 本会に理事、監事、顧問を置く。
(2) 理事は総会において選出され、理事会を組織し、会務を執行する。
(3) 監事は総会において選出され、会計および事業について監査する。
(4) 理事および監事の任期は西暦偶数年に開催される総会から総会までの2年間とする。
(5) 理事会は、会長。事務局長およびその他必要な委員を総会で選出された理事の中から選任する。
なお、任期途中で欠員の生じた委員等の後任委員の任期は当該委員の残任期間とする、
(6) 理事会は特別に学会に貢献した会員を顧問とすることができる。顧問の任期は特に定めない。
10. 本会の経費は、会費、寄付金その他の収入をもって充てる。
11. 本会の会計年度は、4月1日から翌3月末日までとする。
(2) 事務局長は、監事の会計監査を経た後、これを会員に報告しなければならない。
12. この規約を改正するためには、総会の出席者全員の過半数の賛成を得なければならない。

**第7号議案：2024・2025年度役員候補****理事候補****【再任】（21名）**

秋山 道雄 足立 考之 飯岡 宏之 伊藤 達也 大野 智彦 奥田 進一 梶原 健嗣
小幡 範雄 高橋 卓也 土屋 正春 仲上 健一 仁連 孝昭 野田 岳仁 原田 禎夫
平山 奈央子 松 優男 松岡 勝実 三輪 信哉 矢嶋 巖 吉岡 泰亮 若井 郁次郎

【新任】（4名）

大塚 健司 鈴木 康久 千頭 聡 山下 亜紀郎

【退任】（4名）

大橋 浩 西田 一雄 野村 克己 渡邊 紹裕

監事候補

【再任】 花田 真理子

【新任】 西田 一雄

【退任】 宮崎 淳

2024年度 水資源・環境学会 学会賞の決定について

学会賞選考委員会

秋山道雄・足立考之・仁連孝昭・若井郁次郎

学会賞

伊藤達也（2023）
『水資源問題の地理学』原書房

【選考理由】

本書の著者は、これまで約40年間にわたり水資源問題を研究してきた。「はじめに」の箇所
で、著者は、現在、水資源問題は見えにくくなってはいるが依然として全国各地に存在するとい
う認識を示し、こうした水資源問題を地理学の立場から分析し、解説を試みるとしている。著者
は大学に入学して以来主として学んできた地理学をベースにおいて研究を進めてきた。それを明
確に示すために設定したのが本書の表題である。

「はじめに」において、著者は自身が考える地理学の性格と機能について解説し、著者が考え
る地理学が目指すのは地域問題の解決であるとしている。フィールドワークの重視と問題指向的
な研究が著者の地理学観を構成している。

本書は全部で17の章から成り立っているが、それを

I：水資源問題概説（第1章～第6章）

II：水資源問題事例（第7章～第11章）

III：引き裂かれる山村（第12章～第16章）

という3つの枠組みに分類し、最後に「水資源政策を展望する」という終章を配置している。
各章を構成する論攷が公表されたのは2010年から2021年にわたる期間であり、終章は書き下ろし
の論攷なので、著者による近年の研究をまとめたものであることが窺える。著者が長年取り組ん
できた長良川河口堰問題（第8章）は良く知られた事案であるが、長崎県の石木ダム問題（第10
章）はその重要性の割には一般にあまり知られておらず、これに焦点を当てたことは著者の冒頭
の問題意識を反映したものといえる。川辺川ダムと五木村をめぐる問題（第12章～第16章）は、
現在改めて焦点の当たるようになった問題であるが、著者は早くからこの問題に取り組んでお
り、その成果をもとにした現状分析が展開されている。

本書は、水資源問題のうち、主として過剰開発問題に焦点をあて、それが登場する政策や政策
当局の動向と問題点をおさえ、それをふまえつつ顕著な問題の発生している事例に取り組んだ研
究の成果である。過剰開発問題が今後の水資源政策を依然として規定しているという状況を再確
認させる点で本書の意義は大きく、今年度の学会賞授与を決定した。



学会誌『水資源・環境研究』 投稿規程・執筆要領改訂について

編集委員会

昨今の諸物価高騰に伴い、『水資源・環境研究』38巻1号（2025年6月発行予定）より、投稿規程の一部を改訂し、「掲載料」を新設し、規定ページ数を超過した場合の「超過原稿料」を変更することとなりました。また、査読を行う「論説」について、より一層の匿名性ならびに公平性を確保する観点から、査読者に対して論説の執筆者等の情報が届かないようにするため、執筆要領の一部についても改訂を行うこととなりました。

詳細は学会Webサイト「学会誌」に掲載している「投稿規程」「執筆要領」をご覧ください。
（本ニューズレターP14もご覧ください）

学会誌『水資源・環境研究』 37巻2号の目次について

★学会誌は[J-STAGE](#)からアクセスできます。（近日公開予定）

【研究大会特集】

1. 大会特集にあたって 企画の趣旨について 原田 禎夫（同志社大学）
2. 里海づくりとコモنزの復活 松田 治（広島大学名誉教授）
3. 石垣島白保集落のサンゴ礁保全と順応的管理 三輪 信哉（大阪学院大学）

【論説】

1. ボトムアップアプローチの促進における流域管理組織の役割 —キューバの水ガバナンスを事例に—
加治 貴（国際協力機構（JICA）・早稲田大学）
Sarduy Quintanilla Fermín E.（キューバ水資源庁）、井上 真（早稲田大学）
山根 春夫（レックス・インターナショナル）
2. デ＝レーケの知られざる宇治川改修計画 —巨椋池の遊水機能とヲ、フルラート堤—
中川 晃成（龍谷大学）

【研究ノート】

1. 地域環境NPOへの参加と入会理由の変化
—NPO法人「びわこ豊穰の郷」の会員アンケート調査の結果から—
山添 史郎（京都府立大学・滋賀県日野町役場）・野田 浩資（京都府立大学）
2. 嶋津暉之とダム反対運動 —河川行政との対峙の記録— 梶原 健嗣（愛国学園大学）

【書評】

1. 仲上健一著『里海を歩く—志津川湾を訪ねて—』
水資源・環境学会『環境問題の現場を歩く』シリーズ①『志津川湾と野川を歩く』所収
小松 輝久（日本水産資源保護協会技術顧問）
2. 山本佳世子著『多摩川水系・野川を歩く』
水資源・環境学会『環境問題の現場を歩く』シリーズ①『志津川湾と野川を歩く』所収
飯岡 宏之（SUW研究所）
3. 仁連孝昭・奥田進一著 『琵琶湖と二風谷ダムを歩く』
水資源・環境学会『環境問題の現場を歩く』シリーズ③ 鈴木 康久（京都産業大学）

事務局からのお知らせ

学会誌原稿募集

水資源・環境学会では学会誌「水資源・環境研究」への投稿を募集しております。「水資源・環境研究」は、年2回、電子ジャーナルとしてJ-STAGE上で発行しており、会員の皆様に原稿を迅速に公開し、原稿の投稿機会を増やすことを目指しています。また、「論説」や「研究ノート」の他に、国内外における地域の話題や時事問題等をテーマにした「水環境フォーラム」、「書評」も受け付けております。

次号（第38巻1号、2025年6月発行予定）の締め切りは、「論説」は2025年1月31日、それ以外は2025年4月30日です。次々号（第38巻2号）の締め切りは、「論説」は2025年7月31日、それ以外は2025年10月31日です。

投稿規程や執筆要領は学会公式サイトに掲載しています。投稿希望の方は原稿送付状を原稿に添えて「お問い合わせフォーム」内の「論文等の投稿」よりご送付下さい。原稿送付状は学会公式サイト内「お問い合わせフォーム」から「論文等の投稿」を選択して頂くと、Word形式のファイルがダウンロードできますので、そちらに記入をお願いします。学会誌の内容をさらに充実させるべく、皆様の積極的な投稿をお待ちしております。

※非会員学生（元学生）による卒業論文等の内容の積極的な投稿を呼び掛けております。

https://jawre.org/wp-content/uploads/2023/08/journalNonMember_20230731.pdf

水資源・環境学会 事務局長 仁連 孝昭

(投稿規定)

https://jawre.org/wp-content/uploads/2024/12/JjournalRules_20241201.pdf

(執筆要領)

https://jawre.org/wp-content/uploads/2025/01/JjournalGuidelines_20241201.pdf

(バックナンバー目次と内容)

<https://jawre.org/publication/>

■ 連絡先に変更はございませんか？

所属先の変更・転居等により学会からの郵便物が返送されて来る場合や、登録頂いているE-mailアドレスがエラーで届かない場合が多数あります。所属先、連絡先等に変更がありましたら、すみやかに学会公式サイト内「お問い合わせフォーム」の「その他お問い合わせ」より事務局まで連絡をお願いします。

〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1 法政大学文学部地理学科 伊藤研究室

発行:水資源・環境学会

<https://jawre.org/>